関西大学政治学研究部　後期勉強会β班　第８回

経済成長とグローバリゼーション

―最終章 私のグローバリゼーション―

平成 21 年 12 月 11 日

発表者：花村大祐

Ⅰ.はじめに

グローバリゼーションのもたらす無限の可能性は、世界に存在する全ての主体にどう影響するのだろうか。幸福、安全、ゆたかさをもたらす一方で、様々な領域・レベルでの経済格差や貧困、不況をもたらすこともあるだろう。いずれの可能性も持つということで、改めてグローバリゼーションの奥深さを意識するところである。

本発表では、偉大なる経済学者の言葉を拾い、現代における経済問題を考察しつつ、グローバリゼーションを見ていこうと思う。

私が考えうるグローバリゼーションとは、国家対国家で発生していた政治的・社会的・経済的・文化的な様々な現象が国境を超え地球規模で発生することにより、各々が従来とは異なる変化をもたらすことである。

Ⅱ.経済成長とそれを実現した日本

※　今回、あえて経済成長を取り扱うのは、これこそが日本を大国と言わしめるシンボルだと考えるが故である

⇒では、ゆたかな社会はこの数値に帰属するのか？

○　経済成長とは、「生産（特に付加価値が付与された）」と「消費」の増大を意味する

○　経済成長における「投資」の重要性

○　経済成長は近代国家の様々な行動や計画、政策立案において、国家の発展の前提条件・目的として捉えられている。つまり、近代国家とその参加者は何らかの手段をもってその実現と維持を目指している

○　日本の経済成長の要因は…

⇒今日でも経済成長の要因は、その要件を満たしているのだろうか？

Ⅱ.アダム・スミスとグローバリゼーション

〇アダム・スミス『国富論』より…

・重商主義批判からの誤解

・保護主義ではなく、国際主義を志向したという誤解

・スミスは、ひとつのルールや価値観、慣習を相互に共有されている社会を「国家」であると定め、その内部における経済発展を最優先とした

・①国内農業②国内製造業③海外貿易、という投資の優先順位付け

・海外貿易の富の創出とハイリスク

→「自然の秩序」に従い、「自然の性向」を求める⇒それこそが自由の達成

⇒では、現在のグローバル化した世界は、この条件をクリアしており、むしろ積極的に国際的な経済活動を求められているのではないだろうか？

Ⅲ.ケインズとグローバリゼーション

〇　ケインズ『雇用、利子および貨幣の一般理論』より…

・ケインズ主義の否定＝「大きな政府」の機能的失敗という誤解

・「成熟国家」における経済停滞という課題

・産業 VS 金融の構図

Ⅳ.アントニオ・ネグリとグローバリゼーション

〇　アントニオ・ネグリ『マルチチュード』より…

・一般的なグローバリゼーション

⇒自由市場と自由貿易を伴う規制されないグローバル資本主義によって決定される。

・自由貿易の真の擁護者たち（例えば、ダボス会議の出席者のような）の考えるグローバリゼーション

⇒企業や経済市場に対する政治的・法的管理の終わりや監督を意味するのではなく管理の種類の転換を意味する

・自由貿易の真の擁護者たちは疑似的な支配をもたらしている

⇒では、自由貿易の真の擁護者たちは何故このような回りくどいことをするのか？

Ⅴ.佐伯啓思とグローバリゼーション

○　今日における日本経済の停滞とは…

①バブル崩壊後の不況とそれに対する政策の失敗

②グローバル化、情報化、アメリカ主導の市場競争原理への対応の失敗

③日本社会そのものの構造変化への対応の失敗

⇒その責任の所在はペシミズムを内包するオプティミズムな政治にあるのか？

○　今日の不況による、不確実性の増大（特に長期的な）と経済活動の停滞こそが、企業からの投資意欲を損なわせ、消費者の購買意欲をも損なっている

→経済停滞の主因は企業の投資不足である

例）

「長期的な期待」の状態が悪化する

→長期的な投資から短期の取引が促進（特に非物質である金融市場）

→金融バブルの発生→実体経済との乖離→バブル崩壊

→経済全体が不安定化

→「長期的な期待」の状態が悪化する

Ⅵ.おわりに

本発表では、自分はグローバリゼーションを積極的に活用する立場か、反グローバリゼーションの代弁者としての立場か、それとも二者択一に埋没しない新たなる可能性を抱く立場か？また、それ以外にも日本は経済成長を積極的に目指していくべきか否か

いずれも、永遠に答えを見出せない議論を課す形になるかもしれないが、最終章に相応しい結末を迎えるべく、議論に全力を尽くしていきたい

【参考文献】

アダム・スミス著 杉山忠平訳『国富論』2003 年　岩波書店
アントニオ・ネグリ マイケル・ハート著 幾島幸子訳 水島一憲 市田良彦
『マルチチュード』（上下）2005 年　NHK ブックス
佐伯啓思『成長経済の終焉 資本主義の限界と「豊かさ」の再定義』2003 年　ダイヤモンド社
佐伯啓思『アダム・スミスの誤算 幻想のグローバル資本主義（上）』1999 年 PHP 研究所
佐伯啓思『ケインズの予言 幻想のグローバル資本主義（下）』1999 年 PHP 研究所
佐伯啓思「もはや成長という幻想を捨てよう」
『中央公論』千四百九十六号第百二十三年第十二号 2008 年
J・K・ガルブレイス『ゆたかな社会』2006 年　岩波書店
J・M・ケインズ著　間宮陽介訳『雇用、利子および貨幣の一般理論』（上下）2008 年　岩波書店
日本経済新聞社『経済学 名著と現代』2007 年　日本経済新聞出版社
F・A・ハイエク著 気賀健三・古賀勝次郎『自由の条件Ⅰ－自由の価値』2007 年　春秋社
F・A・ハイエク著 気賀健三・古賀勝次郎『自由の条件Ⅱ－自由と法』2007 年　春秋社
水田洋『アダム・スミス』1997 年　講談社